

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年3月16日(2006.3.16)

【公表番号】特表2005-526152(P2005-526152A)

【公表日】平成17年9月2日(2005.9.2)

【年通号数】公開・登録公報2005-034

【出願番号】特願2003-564157(P2003-564157)

【国際特許分類】

C 09 K 11/06 (2006.01)

C 07 D 487/04 (2006.01)

C 08 K 5/3415 (2006.01)

C 08 L 101/00 (2006.01)

H 01 L 51/50 (2006.01)

【F I】

C 09 K 11/06 6 5 0

C 07 D 487/04 1 3 7

C 08 K 5/3415

C 08 L 101/00

H 05 B 33/14 B

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月27日(2006.1.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

を意味し、ここでR₆’及びR₇’は、互いに独立して、水素、C₁～C₆アルキル、-NR₈’R₉’、-OR₁₀’、-S(O)_nR₈’、-Se(O)_nR₈’、又はフェニル(C₁～C₈アルキル又はC₁～C₈アルコキシで1～3回置換されていてよい)を意味し、ただし同時には水素を意味せず、ここでR₈’及びR₉’は、互いに独立して、水素、C₁～C₂アルキル、C₅～C₁₂シクロアルキル、-CR₃’R₄’- (CH₂)_m-Ph、R₁₀’を意味し、ここでR₁₀’は、C₆～C₂₄アリール、又は飽和若しくは不飽和の環原子5～7個を含む複素環式基(この環は、炭素原子並びに窒素、酸素及び硫黄からなる群より選択されるヘテロ原子1～3個からなる)を意味し、ここでPh、アリール基及び複素環式基は、C₁～C₈アルキル、C₁～C₈アルコキシ、又はハロゲンで1～3回置換されていてよく、あるいはR₈’及びR₉’は、-C(O)R₁₁’を意味し、ここでR₁₁’は、C₁～C₂₅アルキル、C₅～C₁₂シクロアルキル、R₁₀’、-OR₁₂’、又は-NR₁₃’R₁₄’であることができ、ここでR₁₂’、R₁₃’及びR₁₄’は、C₁～C₂₅アルキル、C₅～C₁₂シクロアルキル、C₆～C₂₄アリール、又は飽和若しくは不飽和の環原子5～7個を含む複素環式基(この環は、炭素原子並びに窒素、酸素及び硫黄からなる群より選択されるヘテロ原子1～3個からなる)を意味し、ここでアリール基及び複素環式基は、C₁～C₈アルキル又はC₁～C₈アルコキシで1～3回置換されていてよく、あるいは-NR₈’R₉’は、5員又は6員の複素環式基(ここではR₈’とR₉’とは一緒になって、テトラメチレン、ペンタメチレン、-CH₂-CH₂-O-CH₂-CH₂-、又は-CH₂-CH₂-NR₅-CH₂-CH₂-、好ましくは-CH₂-CH₂-O-CH₂-CH₂-を意味する)を意味し、そしてn’は、0、1、2又は3を意味する]で表される蛍光性ジケトピロロピロール(DPP)に関するものである。このDPP化合

物は、インキ、着色剤、コーティング材用の顔料着色されたプラスチック、非衝撃式印刷材料、カラーフィルター、化粧品の製造のために、又はポリマーインキ粒子、トナー、色素レーザー及びエレクトロルミネセンスデバイスの製造のために使用することができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

[式中、R⁵、R⁶、R⁷は、互いに独立して、水素、C₁～C₂₅アルキル、C₁～C₂₅アルコキシ、-CR¹¹R¹²- (CH₂)_m-A⁵、シアノ、ハロゲン、-OR¹⁰、-S(O)_pR¹³、又はフェニル(C₁～C₈アルキル又はC₁～C₈アルコキシで1～3回置換されていてよい)を意味し、ここでR¹⁰は、C₆～C₂₄アリール、又は飽和若しくは不飽和の環原子5～7個を含む複素環式基(この環は、炭素原子並びに、窒素、酸素及び硫黄からなる群より選択されるヘテロ原子1～3個からなる)を意味し、R¹³は、C₁～C₂₅アルキル、C₅～C₁₂シクロアルキル、-CR¹¹R¹²- (CH₂)_m-Phを意味し、R¹⁵は、C₆～C₂₄アリールを意味し、pは、0、1、2又は3を意味し、そしてnは、0、1、2、3又は4を意味する)

を意味しており、

A³及びA⁴は、互いに独立して、

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0063】

を意味する場合、R⁵、R⁶及びR⁷は、互いに独立して、水素、C₁～C₈アルキル、C₁～C₈アルコキシ、-CR¹¹R¹²- (CH₂)_m-A⁵、シアノ、クロロ、-OR¹⁰、又はフェニル(C₁～C₈アルキル若しくはC₁～C₈アルコキシで1～3回置換されていてよい)(ここでR¹⁰は、C₆～C₂₄アリール、例えば、フェニル、1-ナフチル又は2-ナフチルを意味し、R¹¹及びR¹²は、水素又はC₁～C₄アルキルであり、mは、0又は1であり、A⁵は、フェニル、1-ナフチル又は2-ナフチルである)を意味し、そしてここでは以下の式の基:

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0083

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0083】

[式中、R⁵、R⁶、R⁷は、互いに独立して、水素、C₁～C₈アルキル、C₁～C₈アルコキシ、-CR¹¹R¹²- (CH₂)_m-A⁵、シアノ、クロロ、-OR¹⁰、又はC₁～C₈アルキル若しくはC₁～C₈アルコキシで1～3回置換されていてよいフェニルを意味し(ここでR¹⁰は、C₆～C₂₄アリール、例えば、フェニル、1-ナフチル又は2-ナフチルを意味し、R¹¹及びR¹²は、水素又はC₁～C₄アルキルであり、mは、0又は1であり、A⁵は、フェニル、1-ナフチル又は2-ナフチルである)、R⁸及びR⁹は、互いに独立して、水素、C₁～C₈アルキル、C₅～C₁₂シクロアルキル、特にシクロヘキシリ、-CR¹¹R¹²- (CH₂)_m-A⁵、C₆～C₂₄アリール、例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、4-ビフェニル、フェナントリル、テルフェニル、ピレニル、2-若しくは9-フルオレニル又はアントラセニル、好ましくはC₆～C₁₂アリール、例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、4-ビフェニルで、非置換でも、又は置換されていても

よく、特に A¹、あるいは飽和若しくは不飽和の環原子 5 ~ 7 個を含む複素環式基（この環は、炭素原子並びに、窒素、酸素及び硫黄からなる群より選択されるヘテロ原子 1 ~ 3 個からなる）を意味する】
を意味する。